「保育」の原点 78

温かい日中関係

文 葛西得男 text by Tokuo Kassai

新型コロナウイルス感染症を抑え込んで、2020年の中国はGDP（国内総生産）2・3%の「プラス成長」を確保しました。2021年はさらに拡大傾向にあるようです。

2028年までにアメリカを追い抜き世界最大の経済大国になる、と英民間調査機関に予測される中国ですが、私は1980年代ごろ、日中友好協会を通じて中国の経済ミッションに参加したことがあります。

日中友好協会の事務局長は山崎豊子の小説『大地の子』のモデルとなった人で、敗戦混乱の中、旧満洲で両親や妹と離れ離れになりました。

中国 江沢民 元国家主席

「立派な中国人養父のおかげで自分は大学まで進学させてもらった」「中国人の温かさのおかげで今の自分がある」と彼は言っていました。

たくさんの日本の子どもたちが中国人に助けられたことを私たちは忘れてはなりません。また、中国発展の基礎をつくったのは日本の企業の援助なのです。私たちが参加した経済ミッションにも多くの日本の大企業が参加していました。

この経済ミッションで日本と中国のジョイントベンチャー企業が数多く生まれるなど、まさに日本の企業が中国の経済発展を手助けしてきたといえるでしょう。

日本人も優しさを忘れてはいけないし、また中国人も、日本の企業が今の中国の基礎をつくったということを忘れてはならないと思うのです。

温かい日中関係こそ今最も必要とされているのではないかと、現在の状況を見てそう思わずにはいられません。

今こそ温かい日中関係を確固たるものにしたいものです。

Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松稲会 理事長に就任。
松稲会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アップリカ葛西 副社長時代に国連環境計画（UNEP）のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。